

慶応三年七月十四日より慶応三年七月十七日まで

P8310699 right

十四日丑 晴

暖度九十一度(撰氏三十三度)

永持旧隸服部(真次郎)来る不面、添田(三郎)来り面す、尼ヶ崎領主より定紋精通家来名前等聞合に来る、森山(多)昨の書類返却に来る、金枝(鯉)来る、出前に差懸り不面、小笠原(勢州)方へ行き

竹内(日州)参会、支配向役人定員、並木土仕□組立等の儀、談じて午下帰る、江戸表より海老原(育)前嶋来

取人の義に付、御書取二通廻し来る、馬沓代結髪琉球代共、月に一方遣す積り

十五日寅 晴午下雷

計度昨と同じ

金枝(鉄)来り緩に談す、阿州藩森甚作来り英人サトウ招待方の義、縷々問合す、内海より酒一壇

鮭肉味噌一重贈り来る、小笠原(勢)より吾々甫明細書取戻しに来る、返し遣す、森山(多)来る昨の御用状

渡し遣す、同人方へ役の人員建□請書の儀申遣し、且一瓢酒遣す、内海へ重箱を返し、鳴海絞(一反)

P8310699 left

謝し遣す、新潟、白石より雁書届く、英公使上坂比合、其外品海、為開港等云々の儀也十六日卯 晴午下雲

松平隠岐守より、今般転役賀肴代樽代(一円)使者を以て贈り来る、嘉納次郎兵衛、並名代人森清之助来り面し

縷々の談有し、(楮幣\*)を外国人に通用せしむ、阿州より昨挨拶として巨大ハモ□せ二尾海老七尾(不銘名)魚一尾、蛤等一基才輔□迄。

取次二方贈り来る、右品の内半分程、森山(多)稲垣(藤)明日兵庫出張に付件々

相談に来る、添田(三郎)来る、聊公勢による、京地へ御用状(役人の数伺い、西国往還附替再申上、御前借御下ケ金申上、外国支配向手附申上)相掛内状、司農局。重の

(関係の條也)、差在る、佐次兵衛来る、過齋。森山(多)等と同断也、旧家来□蔵来り問う不面、竹内(日州)より□

書留越す、何等の□敷、尤返書遣す十七日辰 雲、午前雷雨快□乍晴

計度八十九度(撰氏三十二度)

\*1:楮幣(ちよへい) 紙幣のい

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。